

河曲地区地域づくり協議会

広報 かわの

令和6年9月20日 第18号

酷暑下で見事な操法展開 三重県消防操法大会 7.21

7月21日、石薬師高校に隣接する三重県消防学校で、令和6年度三重県消防操法大会が開催されました。北勢いなべ市から南勢紀北町まで三重県全域から選抜された12消防団は、小型ポンプの部に7団体、ポンプ車の部に5団体、の2群に分かれ、午前9時半から午後3時半まで、錬成してきた操法技量を競い合いました。

河曲消防分団選手6名は鈴鹿市代表として小型ポンプ操法の部に出場し、酷暑の中、河曲からの応援団50名の声援を受けつつ競技に臨みました。

審査の結果、小型ポンプの部では亀山市消防団が、ポンプ車の部では伊賀市消防団が優勝しました。鈴鹿市代表の河曲消防分団は惜しくも入賞を

逸しました。審査は操法技量と所要タイム双方の観点から行われました。タイムに限れば亀山は45秒90、河曲は48秒48でした。

出場された河曲選手団は以下の皆さんです。

団長	石田久雄	旗手	楠直幹
指揮者	河北哲	1番員	尾崎信孝
2番員	武野剛士	3番員	松林健太郎
吸管補助員	杉野良樹	補欠	小岐須隆

消防操法大会鈴鹿市壮行会 鈴鹿市消防本部 7月12日

期日前後の記事になりますが、石薬師の操法大会を目前にしていた7月12日夜、鈴鹿市消防本部で、春先から長期にわたり操法錬成に取り組んでいた河曲分団への壮行会が行われました。

席上、末松則子鈴鹿市長はじめ各方面から激励のことばが贈られ、西村善行分団長から壮行会開催の御礼、ならびに最善を尽くす旨の決意表明が



操法競技開始の指令を待つ河曲分団選手6名。後方に応援会の分団員。手前は審査員及び審査補助員。



大会会場での河曲分団による火点放水。後方に立会の分団員。右奥に河曲はじめ各市町からの応援団テント。

ありました。そのあと下掲写真のとおり、夜間照明のもと、庁舎脇の広場で、関係者を前にして操法実技の披露などが行われました。



重層的支援体制整備事業 説明会 R6. 7. 1

7月1日、主に民生児童委員さんあてに表題の説明会が開かれました。本誌17号でお伝えした鈴鹿市の新年度事業体制整備の一環です。

福祉関連諸事業の隙間になって手の届き難い案件に関し、現行各事業担当者が相互或は三者間情報交換を密にして、包括的支援体制を重層的に整備しようとする取り組みの周知の機会でした。



説明を聞く民生委員さんと地域づくり役員の方々

平穏裡にラジオ体操

7月27日&8月3日

戦争にも地震にも洪水にもなんら苛まれることなく、平穏裡に朝のラジオ体操に臨むことができるのはまさに僥倖、というべき昨今です。

例年通り令和6年夏のラジオ体操は河曲小学校の運動場で行われ、初回307名、二回目238名、計545名のみなさんの参加がありました。

朝6時半、朝日が昇り、みんなの左斜め、足元から伸びる影は長く美しく、穏やかで爽やかです。河曲の一日はこうして始まっていきます。



濃密な情報満載の 『鈴鹿市総合防災マップ』 京都市市民防災センター研修のあとで

自治会総代会主催一日研修 7月6日

7月6日、正月の能登半島地震を思い出しつつ河曲農協駐車場でバスに乗り、京都市市民防災センターへ一日研修に出ました。先方は私達の団体名を明記した大型スクリーン画像（写真参照）を以って「ようこそ、センターへ」と迎えて下さいました。この一ヶ月後、8月8日の日向灘地震以降、センターで見学体験したすべてが自分達に迫ってくるなど夢想的に感じていませんでした。

展示パネルの情報

最初の展示室では南海トラフ巨大地震が「2030～2040年に発生!？」、その際には「南海トラフ地震臨時情報」が出るとパネルにありました。

次の展示室では猛烈な豪雨の場合、「大雨特別警報」、河川の「氾濫危険情報」、避難情報としての「緊急安全確保」など普段見かけない防災情報が戸惑いすら覚えました。

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ
「南海トラフ」

想定震源域またはその周辺で異常な現象が観測され、気象庁が南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表

国：異常な現象を評価

気象庁：評価結果を発表

評価結果：巨大地震注意

想定震源域またはその周辺でM7クラスの地震が発生（一部割れ）
※プレート境界で異常なゆっくりすべりが観測されても発表されます。

評価結果：巨大地震警戒

想定震源域のプレート境界でM8以上の地震が発生（半割れ）
1週間以内に巨大地震が発生するおそれが一気に高まります。



『鈴鹿市総合防災マップ』78頁より引用



画像に「京都市 市民防災センターへようこそ 鈴鹿市河曲地区自治会総代会 2024年7月6日(土) みんなで防災体験」とある。

まさかの南海トラフ地震と台風7号 8月8日～

8月8日午後4時43分、日向灘で地震、以来一週間、京都で見学したパネルの文言が現実のものとなり、「臨時情報」として周辺の全てが「巨大地震注意」体制に移行しました。

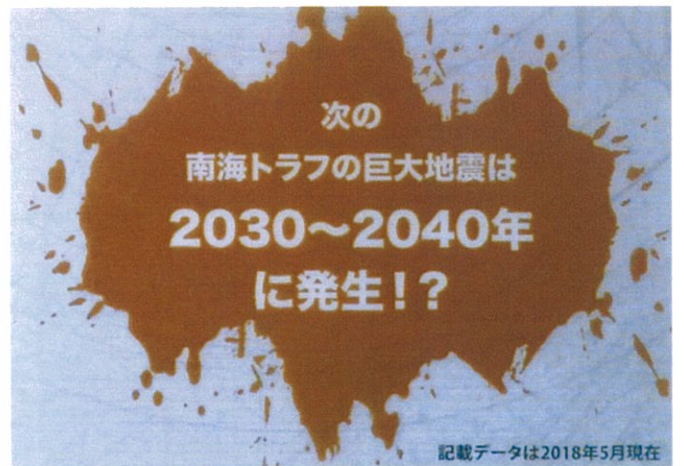
加えてほぼ同時期、台風7号崩れの豪雨が東日本を襲い、線状降水帯の発生、緊急安全確保などが連日、詳細に報道されました。

『鈴鹿市総合防災マップ』の濃密な情報内容

報道が一段落した8月18日、念のため、ハザードマップで地区の洪水危険度を確認しておこうと思い、本棚に置いたままの、鈴鹿市が3月に発行した全戸配布改定版『総合防災マップ』を改めて開いてみました。

全91ページ建てのこの冊子、65ページまでは当該住居地区が洪水や高潮、津波にどの程度の危険度にあるかを示す色相地図が続き、標準仕様の最重要第一次情報冊子に間違いありません。

ですがこの『総合マップ』は、ハザードマップであるとともに、66ページ以降、南海トラフ地震臨時情報から「マイ タイム・ライン」に至るまで濃密な情報が網羅的に書かれてありました。た



京都市市民防災センターの掲示パネルより

たとえば78頁には、前頁左下欄の領域図が掲載されています。緊急安全確保の件は90頁に、「わが家のマイ・タイムライン」としてこれまた記載されています。ほかにも、

- 非常持ち出し品・備蓄品の図示、
- 避難時の服装・災害時の共助の図示、
- 災害時の避難生活の心得の見える化、
- 風水害に対する心得①、心得②、
- 地震に対する心得、

など、今だからこそ手にとって再確認すべき多岐にわたる情報が載っています。

念のため以下に、河曲地区の避難所一覧と施設に備蓄されている物資を列記しておきます。

収容避難所（仮設住宅ができるまでの間、避難する施設）

河曲小学校体育館、神戸中学校体育館、河曲公民館、鈴鹿市考古博物館

福祉避難所（要配慮者の方が避難する施設）

鈴鹿聖十字の家、ひまわり苑、すずのね

緊急避難所（緊急時に一時的に避難する施設）

各地区の自治会が管理する公民館・集会所

備蓄物資 28品目

段ボールベッド、簡易ベッド、クリアボックス、消毒液、トイレクリーナー、ニトリルグローブ、ペーパータオル、マスク、非接触型体温計、担架、プライベートテント、大型扇風機、紙コップ、圧縮毛布、トイレトーパー、非常用トイレ、トイレ処理袋、発電機、LED照明、コードリール、延長コード、ガソリン缶、エンジンオイル、布製水槽、給水袋、リヤカー、ブルーシート、乾パン、ポリタンク、消火バケツ

河曲地区旗 所在と誕生の経緯

過日、「2024～2027 地域計画」誌上で「河曲地区旗」を紹介しましたが、いつ頃からか、どこにあるのか等のお尋ねがありましたので、判明分を報告いたします。

現在、「河曲地区旗」は地域づくり事務局に在ります。縦130センチ横170センチの大旗です。昭和40年8月15日、終戦20周年を記念して全21地区（概ね小学校区に相当、後に8地区が加わる）が地区を象徴化する旗を作りました。そして同年11月7日、第4回市民体育祭の当日、各地区選手団の先頭にあつて



入場行進を盛り上げたのがこの地区旗でした。以後、平成12年第39回大会まで使われました。

「鈴鹿市総合計画 2024～2031」の策定と明日の河曲地区

このたび令和6年度から令和13年度迄の8年間を計画期間とした「鈴鹿市総合計画2031」が出来上がり、4頁建資料として全戸配付されました。

市民全員の協働により、今から8年後の2031年には、次のような6つのビジョンのもとに「最高に住みやすいまち鈴鹿」を創りあげておきましょうとの青写真の提示です。具体的には、

1. 子どもが輝き人と文化を育むまち
2. 健やかにいきいきと暮らせるまち
3. 生命と財産を守り抜ける安全・安心のまち
4. 自然と調和し快適な都市環境を未来へ繋ぐ町
5. 持続可能な産業の発展とにぎわいや交流が生まれるまち
6. みんなで支える自分らしく生きるまち

の6つです。河曲地区地域づくり協議会の萩義彦会長は「長期戦ですが、地域づくり協議会としても皆さんと共に、これの実現にむけて諸活動を進めてまいります。」と意欲的です。同資料には項目別に更に詳細な文言が綴られています。みなさんのご理解とご協力をお願い致します。



河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』第18号 令和6年9月20日 発行
発行責任者 河曲地区地域づくり協議会 事務局長
事務局 河曲公民館内「地域部屋」 電話059-390-1295